

中間のガジュマル

魅力的な中間集落には、2本の大きなガジュマルから成る木の門があります。ガジュマルは、気根を枝から垂らすことで生育し、徐々に大きくなります。気根は最終的には地面に届き、太い根となり、木を支えます。また、他の木を絞めるため、「絞め殺しの木」（英語では絞め殺しのイチジク）とも呼ばれています。

ガジュマルの木の門は、1923年に村人たちによって切り開かれました。それにより、村人たちは彼らの牛が運ぶサトウキビを、木の向こうにあるサトウキビ工場へ送ることができるようになりました。この集落は、のんびりした南国の雰囲気は今なお残していますが、島のこの地方のほとんどの集落と同じように、夏にはよく台風にみまわれます。このため、住民は家を低く建て、屋根には石を載せています。村を散策すると、このような興味深い家を細かく見ることができます。